阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室ニュース

Vol.42
2010年8月
●発行●

震災から15年　～あの日を振り返る震災資料～

人と防災未来センター所蔵震災資料紹介

震災から15年の月日が経過しました。人と防災未来センターでは、現在約17万1千点の震災一次資料（写真や避難所で使用された物、震災に関連する書類など）と、約3万4千点の二次資料（図書）を保有しています。その中から今回は、最近寄贈された震災一次資料をご紹介します。

沖縄からさしのべられた手

～(宗)沖縄キリスト福音センター　美浜教会のボランティア活動の記録～

この資料は沖縄にある美浜教会の教会員の方々が、震災4日後から1ヵ月間神戸でボランティア活動に従事し、撮影した写真資料です。

教会ではテレビで震災を知り、2台のトラックに給水用のポリタンク2個を乗せて、フェリーで救援に来たそうです。活動場所はボランティアの統括組織に紹介された、高羽小学校（神戸市灘区高羽町）でした。

車窓から見た被災地

沖縄から持ってきた
給水タンク

三田に買い出しに行く途中、
車窓から見た雪

主な活動は、ガスと水が復旧していなかった高羽小学校への、給水タンクと仮設風呂の設置です。給水タンクは沖縄から持って来たもので、飲料水を確保できるようにしました。仮設風呂は、三田市の内田総合設備よりボイラーを提供してもらい、廃材やブルーシートなどでドア付の風呂場を作りました。名前は「たかはの湯」。女子風呂と男子風呂が別々に設置されました。

神戸入りしてからおよそ2週間後に完成したお風呂は、寒さが厳しい避難所生活に大きな喜びを与えました。

沖縄から来ていた教会員の方々にとって、1月の神戸は体験したことのない寒さだったそうです。

車の中で着込んでいても寒い、ゴム手袋をしても冷たい、食べている端から冷めてゆく、トイレも近くなる、という状況でした。トイレは断水しているので、用をたしたらプールから汲んできた水で流さなくてはなりませんでした。

教会員の船越啓二郎さんにお話を聞かせていただきましたが、彼が初めて雪を見たのも、この時だったそうです。クリスチャンとして、聖書にある「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」という言葉に従い活動されたそうです。

仮設風呂「たかはの湯」設置

写真向かって右が女子風呂、
左が男子風呂

「たかはの湯」に自衛隊の
給水車到着

◀ 当時の高羽地区の様子がわかる図書

『わたしたちは　わすれない
ー高羽の子の心にきざまれた　阪神淡路大震災の記録集ー』
1995年8月、神戸市立高羽小学校発行（非売品）　5-D/ガク/11275

寄贈写真から見る「震災当時と現在」

2009年1月、神戸市東灘区の今村稔朗さんより、写真をご寄贈いただきました。

震災当時、今村さんご自身に怪我はありませんでしたが、お仕事のお得意先のことが心配で、地震の1週間後から3ヶ月間ほど自転車でお得意先回りをし、安否の確認をしていたそうです。

その合間に、「大災害の記録を残さなければ」と思い、カメラのシャッターを切り続けたとのことです。その後、その写真を人に見せることはありませんでしたが、復興する街並みを目の当たりにし、人々に震災のことを知ってもらうために公開を考えるようになったといいます。ご自身でも写真展などを企画されており、「当時の写真だけの展示では悲しい」と思って、復興した後の同じ場所の写真も撮影されました。

ここでは、その写真の一部を掲載します。

他の写真は、センターホームページの資料検索(http://lib.dri.ne.jp/search/index.asp)でご覧いただけます。

● 震災当時(左)と復興後のオリエンタルホテル近辺の様子

資料番号：0000427-001001-002.00001

資料番号：0000427-001001-001.00001

● 震災当時(左)と復興後の三宮そごうと歩道橋近辺の様子

資料番号：0000427-001001-014.00001

資料番号：0000427-001001-013.00001

FM796フェニックス －情報を発信しつづけた臨時ラジオ局－

2009年8月、井上晋氏より、臨時ラジオ局FM796フェニックスに関する資料提供がありました。震災のあとは、とかく情報不足に陥りがちでした。そのため、さまざまな媒体が情報発信の手段として利用されましたが、ラジオもまた、そのうちの一つでした。救援物資としても、電機メーカーから大量のラジオが国や県を通じて寄贈されたといいます。

このラジオを活用すべく、FM796フェニックスは、1995年2月15日から3月31日まで、兵庫県が設置主体の臨時ラジオ放送局として、毎日12:00～20:00の間、さまざまな情報を発信しつづけました。県職員、NHKからの応援(放送機器含む)のほかは、最大72名のボランティアによって運営されました。

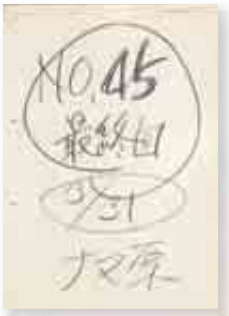
井上氏は、当時大学生でしたが、自身も神戸市須磨区で被災され、自分にできること、自分にしかできないことを探したといいます。このFM796フェニックスのボランティア募集をうけて、大学で放送部に所属していたこともあり、応募しました。

ボランティア期間は、3月に入ってから放送の終了した3月末までの約一ヶ月の間で、その間は休日なしで毎日、取材先への電話インタビューや交渉など、さまざまな仕事に従事されました。

今回、井上氏から寄贈された資料には、2月15日の放送開始から終了日までの全ての放送台本が収められているほか、放送にあたってのメモや関連資料等が含まれています。

放送台本を見ると、営業中の銭湯の紹介のような生活関連情報から、震災に便乗した犯罪・悪質商法への注意喚起、災害関係の法律の解説、国税の減免情報、交通情報など、非常に多岐にわたる情報を発信し続けたことが分かります。また、各被災地からの情報を、地域別に伝えるなど、道路情報・気象情報などの重要な情報は、繰り返し流すなど、聴き手のことを最大限考慮した工夫を重ねたこともうかがえます。

情報が必要にも関わらず、情報量が絶対的に不足しているとき、それを克服するための試みを知る上で、大変貴重な資料群といえます。



最終回の放送台本

スタッフ証

ＦＭ796フェニックスの活動をまとめた記録誌

営業の再開に向けた励ましの声

2010年5月、神戸市中央区の城戸健二さん（65歳）より、資料をご寄贈いただきました。

城戸さんは、1974年から加納町で串焼ホルモンのお店をされていました。開業22年を迎えようとしていた店は震災によって全壊。当時はよく明け方頃まで営業していたそうですが、震災が発生した時は、幸い休業日だったためお客さんなどは誰もいませんでした。自宅も全壊となった城戸さんは、震災後、吾妻小学校（現・中央小学校）で手伝いをしたり、アルバイトをしたりしながら、三宮にお店を移し、9月に再オープンしました。

寄贈資料は、震災当時、全壊した加納町のお店のシャッターに張り出していた伝言板や、当時の写真、チラシなどです。

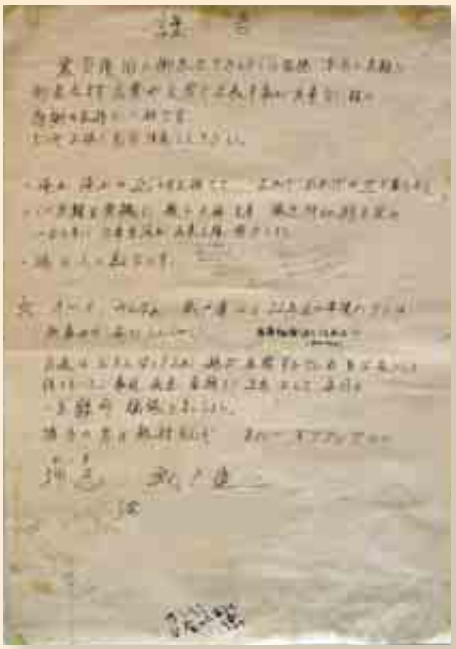
その伝言板のうちの一枚には、「オーイ、みんなぁ、城戸健二と22年目の串焼のタレは無事やけ安心しんしゃい。目途は立たんばってんが、絶対再開するけんね、首を長うして待っといて。事故・病気・金繰りに注意ばして毎日を一生懸命がんばりましょう。」と、自分の無事を知らせる内容と必ず店を再建するからお互い頑張ろうというメッセージが書かれています。

このメッセージに対して、お客さん達から「再開するのを楽しみにしてまっせー」や「城戸さんがんばってください。城戸さんとこがなくなると、深夜どこでごはんを食べればよいのやら・・・」など、店の再開を待ち望む励ましの声が所々に書き寄せられています。この伝言板は、三宮の店が再開されてからも店内にずっと張り出されていました。

神戸で36年間、震災を乗り越え、地域の人々やお客さん達に愛され続けてきた城戸さんのお店も、2010年の5月末で店仕舞いとなるそうです。

資料室で資料を受け入れるきっかけとなったのは、お店の常連の方が資料室を訪れ、「みんなの想いが詰まった伝言板をどうにか残したい」と知らせてくれたことです。調査に伺った際は、店の後片付けでお忙しいにもかかわらず、当時のことを話していただきました。城戸さんのお話と店内のいたるところから、長い間、多くの人たちに愛されてきたということが伝わってきます。

今回寄贈いただいた資料からは、震災後の困難な状況下で地域の人たちや通い慣れたお客さん達の温かい励ましが伝わってきます。そうした想いを将来へ引き継いでいくとても貴重な資料です。



寄せ書きがされた伝言板（上）
店頭に張り出されていた当時の写真（下）

トライやるウィークで中学生を受け入れました！

兵庫県内の中学2年生が職場体験をする「トライやるウィーク」が実施され、人と防災未来センターでは、6月8日から11日まで、神戸市立歌敷山中学校の2年生5名を受け入れました。短い期間でしたが、来館者対応や、書類整理など、いろいろなお仕事を体験してもらいました（写真右側）。

資料室では、図書の補修や震災資料の整理などのお手伝いをお願いしました。補修のために、図書の表紙に透明なカバーを貼る作業は、ぴったり貼りつけるのが少し難しいのですが、丁寧に仕上げてくれて、とても助かりました（写真下）。

関西大学「安全ミュージアム」に
人と防災未来センター所蔵の震災資料展示中

2010年4月24日より関西大学高槻ミューズキャンパスにて「大震災を今に伝える」をテーマに人と防災未来センター所蔵の阪神・淡路大震災時の現物資料を約30点展示しています。

高槻ミューズキャンパスは、今年4月に開校したばかりで、安全・安心をデザインできる社会貢献型の人材を育成することを目的とした「社会安全学部」が新設されています。西館2階の「安全ミュージアム」では、センター所蔵の震災資料の他、社会安全学部で取り扱う学問領域（地震などの自然災害や事故などの社会災害）のパネル展示なども行われています。

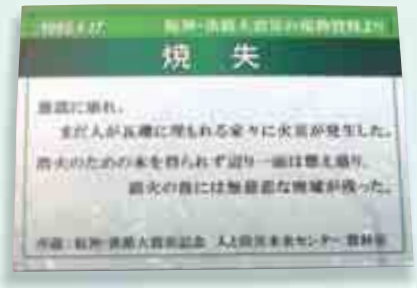
一般開放されていますので、どなたでも入場していただけます。入場無料です。是非ご覧ください。

展示期間 4月24日（土）～10月22日（金）

開室日時 月～土　9:00～17:00
※ただし、祝日および大学が定めた休日等は休室

● **関西大学高槻ミューズキャンパスへのアクセス**
大阪府高槻市白梅町7番1号
（JR高槻駅から徒歩約10分　阪急高槻駅から徒歩約15分）
http://www.kansai-u.ac.jp/global/guide/access.html#muse

※高槻ミューズキャンパスへの自動車・バイクによる入構は禁止されています。
駐車・駐輪スペースはありませんので、公共交通機関をご利用ください。



資料室は無料で
ご利用いただけます

（公財）ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター 資料室（西館5階）

〒651－0073　兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1－5－2
TEL.078－262－5058　FAX.078－262－5062

HPアドレス http://www.dri.ne.jp
開室時間 9:30～17:30（展示スペースとは時間が異なりますので、ご注意下さい）
閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）　12月29日～1月3日